

論文審査の要旨

報告番号	甲・乙 第 2970 号	氏名	大場 智洋
論文審査担当者	主査 大嶽 浩司 副査 小風 暁 副査 長塚 正晃		
<p>(論文審査の要旨)</p> <p>救急診療では、外傷患者の搬入時に腹部超音波検査 (Focused Assessment with Sonography for Trauma: FAST)による原因検索が広く普及している。大場らは、産科危機的出血の場合にも FAST と同様な系統立てた腹部超音波検査が必要であると考え、Focused Assessment With Sonography for Obstetrics (FASO)と名付けたプロトコールを作成し、その導入にあたり、分娩後の腹部超音波検査所見の基準値作成を目的とした検討を行った。</p> <p>経膈分娩 1 時間後の褥婦に仰臥位で腹部超音波検査を施行し、子宮内腔の厚さと形状、モリソン窩、脾腎境界、ダグラス窩の echo free space、下大静脈径を評価した。182 例の検討では、子宮内腔の厚さの平均 (標準偏差) は $9.8 \pm 7.3 \text{mm}$ であった。echo free space はダグラス窩で 3 例 (1.6%)、モリソン窩で 1 例 (0.5%) 認めたものの脾腎境界に陽性例はなかった。下大静脈径は吸気時: $11.4 \pm 4.1 \text{mm}$、呼気時: $13.1 \pm 4.2 \text{mm}$ であり、分娩時出血量との間に有意な負の相関を認めた。</p> <p>胎盤遺残、子宮内反症、子宮破裂といった産科危機的出血の原因となりうる合併症の検出、ならびに分娩時出血量の迅速な推定への FASO の基準値を作成することの有用性が示唆された。本論文は産科危機的出血の診断基準に関する新知見を有し、学位論文に値すると判断した。</p> <p>論文題名: Reference values of Focused Assessment with Sonography for Obstetrics (FASO) in low risk population. (Focused Assessment with Sonography for Obstetrics (FASO)の基準値作成)</p> <p>掲載雑誌名: The Journal of Maternal-Fetal & Neonatal Medicine. 2016 年 掲載予定</p>			

(主査が記載、500 字以内)